

Development of assessment indicators to decide when to stop observing stroke patients during transfer based on clinical judgments made by nurses

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Takayanagi, Tomoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/28535

博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2186号

学籍番号 0527022017

氏 名 高柳 智子

論文審査員

主 査 (職名) (教授) 泉キヨ子

副 査 (職名) (教授) 塚崎 恵子

副 査 (職名) (教授) 須釜 淳子



論文題名

Development of assessment indicators to decide when to stop observing stroke patients during transfer based on clinical judgments made by nurses.

(看護師の臨床判断を基盤とした脳卒中患者における移乗時の「見守り解除」に関するアセスメント指標の開発)

論文審査結果

論文内容の要旨

本研究の目的は、回復期脳卒中患者のベッド・車椅子間移乗において、見守りを解除し自立へと移行する際の看護師の臨床判断を基盤としたアセスメント指標を開発することである。方法はアセスメント指標の収集、アセスメント指標の洗練化・内容妥当性の検討、移乗時見守り解除の臨床判断に関連するアセスメント指標の明確化の3段階で行った。その結果、アセスメント指標の収集では3つのフォーカス・グループ・グループより抽出された指標は33項目であった。それらの情報から5領域に分類した。このうち、I-CVIが0.78未満の削除や修正を加え、5領域19項目のアセスメント指標を作成した。これを84名の患者に使用したところ、看護師が判断した見守り解除群は38名、見守り続行群は46名であった。単変量解析の結果、看護師の臨床判断と有意な関連が認められたアセスメント指標は13項目であった。ロジスティック回帰分析の結果では、有意な関連が認められたのは、「毎回移乗目的物が移乗可能な位置にあることを確認してから移乗できる」(OR=14.2, 95%CI: 2.9-69.1, p=0.001)と、「毎回履物を履いてから移乗できる」(OR=9.5, 95%CI: 1.9-48.3, p=0.006)の2項目であった。以上を通して、移乗時の見守りを必要とする脳卒中患者に見受けられる高次脳機能障害の特性を具体的に表しており、見守り解除の意思決定の助けとして有用であると示唆された。

論文審査結果

本論文はこれまで看護師が経験的に行っていた脳卒中患者における移乗時の「見守り解除」を看護師の臨床判断を基盤としたアセスメント指標として開発したことがオリジナルであり、意義ある研究として評価された。このことは移乗時における脳卒中患者の転倒予防の視点からも極めて有用である。審査会においても口述発表、質疑応答ともに的確であった。

以上より、本論文は博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。